

みどりからのメッセージ 自然共生社会をめざそう

共生の科学・生物多様性・レジリエンス・文化を考える

開催日時： 平成25年10月21日(月) 13:30 ~ 16:30

場所： 日本学会会議(東京都港区六本木7-22-34)

会場： 日本学会会議講堂

申込み方法： 申込み不要(当日先着順)

主催者： 日本学会会議 環境学委員会

後援： (独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(RISTEX)
研究開発プロジェクト「いのちを守る沿岸域の再生と安全・安心の拠点としてのコミュニティの実装」
一般財団法人 日本森林林業振興会

演題

13:30 - 13:35 挨拶

石川幹子(中央大学理工学部教授、日本学会会議環境学委員会委員長)

13:35 - 13:50 みどりの学術賞 - その意義と今後への期待 -

木平勇吉(東京農工大学名誉教授、一般財団法人日本森林林業振興会会長、第7回みどりの学術賞選考委員会委員)

第1部 「共生」、科学から社会へ

13:50 - 14:10 マツ林とマツタケの共生科学

鈴木和夫(独立行政法人森林総合研究所理事長、東京大学名誉教授、元日本学会会議会員、第4回みどりの学術賞受賞者)

14:10 - 14:30 サクラソウとマルハナバチの共生科学

鷺谷いづみ(東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学会会議会員、第7回みどりの学術賞受賞者)

14:30 - 14:50 震災復興と自然共生

石川幹子(中央大学理工学部教授、日本学会会議会員、環境学委員会委員長、第2回みどりの学術賞受賞者)

14:30 - 14:50 日中韓/文化としての環境学の創成を

原剛(早稲田大学名誉教授、早稲田環境塾塾長、毎日新聞客員編集委員、第7回みどりの学術賞選考委員会委員)

第2部 「自然共生社会」実現に向けて

15:20 - 16:20 パネル討論

進士五十八(東京農業大学名誉教授、元東京農業大学長、元日本学会会議会員、第7回みどりの学術賞選考委員会副委員長)

鈴木和夫(独立行政法人森林総合研究所理事長)

鷺谷いづみ(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

石川幹子(中央大学理工学部教授)

原剛(早稲田環境塾塾長)

<開催趣旨>

みどりからのメッセージ 自然共生社会をめざそう

自然共生社会の実現は、2010年名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)においても、主題として取り上げられ、東日本大震災の発災以来(2011年、3月11日)、日本各地でのまちづくりや、市民活動の共通目標ともなっています。

日本学術会議環境学委員会は、「日本の展望 - 学術からの提言2010 環境学分野の展望 - 持続可能な社会に向けた国土・地球環境形成に対する環境学からの提案」において、地球公共財の持続的維持への総合的取組の基本方向を提示しました。

また、内閣府では、植物、森林、緑地、造園、自然保護等みどりに対する学術研究功績を表彰する「みどりの学術賞」が創設され、2007年を第1回とし本年まで7回の表彰がなされていますが、より多くの人びとに「みどり」についての関心と理解を促進するために、その学術的な業績と社会の関わりが紹介されることが重要となっています。

そこで、21世紀の最重要テーマである「自然共生社会」の基本である“共生”(symbiosis)の科学をわかりやすく解説し、共生の仕組みや考え方を踏まえた社会、文化、さらには国際関係のあり方まで広く市民社会が共有すべき環境思想として理解が得られるようなシンポジウムを企画いたしました。共に考え、「自然共生社会」の実現に向けた力強い一歩を踏み出す、シンポジウムとしたいと思います。